

2) 類型区分ごとの主な動物相、植物相及び生息・生育基盤の状況

山梨県及び長野県の調査区域における自然環境の類型区分ごとに生息・生育基盤及びそこに生息・生育する可能性のある主要な動植物の整理を行った結果を表 5-1-49 に示します。

表 5-1-49 類型区分ごとの主要な生物種・群集

No.	類型区分	生息・生育基盤の種類	生息する可能性のある主要な動物種	主要な植生
1	高山帯・亜高山帯－自然林・自然植生	樹林地 原野	哺乳類：ホンドオコジョ、ホンシュウトガリネズミ、ヤマネ、ホンドモモンガ 鳥類：ホシガラス、ミソサザイ、コマドリ、ヒガラ、ウソ 両生類：アズマヒキガエル、ヤマアカガエル 昆虫類：ベニヒカゲ、クモバベニヒカゲ、タカネヒカゲ、コヒオドシ	フジハタザオーオンタデ群集 シラビソ－オオシラビソ群集
2	山地・低地・台地－自然林・自然植生	樹林地 牧草地	哺乳類：カモシカ、ニホンザル、ツキノワグマ 鳥類：ハチクマ、ジュウイチ、ゴジュウカラ、キクイタダキ 爬虫類：ジムグリ、シロマダラ 両生類：ハコネサンショウウオ、ヤマアカガエル、タゴガエル 昆虫類：コエゾゼミ、オニクワガタ、キベリタテハ、ツヤハダクワガタ、アラメハナカミキリ、キオビホオナガスズメバチ、オオイチモンジ、ヒメシジミ、ウラジャノメ	ウラジロモミ群落 ハンノキ群落
3	山地・低地・台地－二次林・二次草原	樹林地 牧草地、草原	哺乳類：ニホンジカ、ツキノワグマ、テン、キツネ 鳥類：オオタカ、シジュウカラ、コルリ、ホトトギス 爬虫類：ジムグリ、シロマダラ 両生類：ヤマアカガエル、タゴガエル、モリアオガエル 昆虫類：エゾハルゼミ、ミヤマクワガタ、ヒメオオクワガタ、ルリボシカミキリ、ジョウサンミドリシジミ、オオムラサキ	クリーミズナラ群落 ササ草原
4	山地・低地・台地－植林	樹林地	哺乳類：カモシカ、ニホンジカ、ニホンリス、キツネ 鳥類：オオタカ、ノスリ、ヒガラ、メボソムシクイ 爬虫類：ジムグリ、アオダイショウ 両生類：ヤマアカガエル、タゴガエル、モリアオガエル 昆虫類：エゾゼミ、ハルゼミ、チッチゼミ、ウバタマムシ、ヤマムツボシタマムシ	カラマツ植林 アカマツ植林
5	低地・台地－農耕地	耕作地 (水田・畑地)	哺乳類：タヌキ、キツネ、イタチ、アズマモグラ 鳥類：チョウゲンボウ、キジ、ホオジロ、ムクドリ 爬虫類：ヤマカガシ、シマヘビ 両生類：アマガエル、トノサマガエル、トウキョウダルマガエル、イモリ 昆虫類：モンシロチョウ、モンキチョウ、シオカラトンボ、ナナホシテントウ、コバネイナゴ 貝類：マルタニシ、サカマキガイ、ヒメモノアラガイ、ヒラマキミズマイマイ	畑地雑草群落 水田雑草群落
6	自然草原・開放水域	川、沢、湖、ため池、水際	哺乳類：イタチ、カヤネズミ 鳥類：オオヨシキリ、ヒバリ、ツバメ、カワラヒワ 爬虫類：カナヘビ 両生類：カジカガエル、アマガエル、ニホンアカガエル 昆虫類：ギンイチモンジセセリ、ツバメシジミ、アカタテハ、ミヤマアカネ、ショウリョウバッタ、トノサマバッタ、カンタン 貝類：カワヒナ、ニホンマメシジミ	ヨシクラス
7	市街地	住宅地	哺乳類：アブラコウモリ 鳥類：スズメ、ヒヨドリ、ツバメ、ハシブトガラス 昆虫類：ナミアゲハ、キチョウ、ヤマトシジミ	－

a. 高山帯・亜高山帯－自然林・自然植生

「高山帯・亜高山帯－自然林・自然植生」は、八ヶ岳の山麓部にあたり、植生図では主にフジハタザオ－オンタデ群落、シラビソ－オオシラビソ群集、高山ハイデ及び風衝草原等の自然植生により構成されています。これらの生息・生育基盤に生息する主な動物として、ヤマネ、ホンドオコジョ、ホンドモモンガ等の樹林性の小型哺乳類、ホンガラス、ミゾサザイ等の鳥類、アズマヒキガエル、ヤマアカガエル等の両生類、ベニヒカゲ、クモマベニヒカゲ、タカネヒカゲ等の昆虫類が生息すると考えられます。

b. 山地・低地・台地－自然林・自然植生

「山地・低地・台地－自然林・自然植生」は、緩やかな山麓部、野辺山高原等の台地、千曲川やその支川沿いの低地にあたり、植生図ではウラジロモミ群落、ハンノキ群落等の自然植生により構成されています。これらの生息・生育基盤に生息する主な動物として、カモシカ、ニホンザル、ツキノワグマ等の哺乳類、ハチクマ、ジュウイチ、ゴジュウカラ等の鳥類、ジムグリ、シロマダラ等の爬虫類、ハコネサンショウウオ、タゴガエル等の両生類、コエゾゼミ、アラメハナカミキリ、ウラジャノメ等の昆虫類が生息すると考えられます。

c. 山地・低地・台地－二次林・二次草原

「山地・低地・台地－二次林・二次草原」は、緩やかな山麓部、野辺山高原等の台地、千曲川やその支川沿いの低地にあたり、植生図ではクリーミズナラ群落、ササ草原等の二次林、二次草原により構成されています。これらの生息・生育基盤に生息する主な動物として、ニホンジカ、テン、キツネ等の哺乳類、オオタカ、シジュウカラ、ホトトギス等の鳥類、ジムグリ、シロマダラ等の爬虫類、ヤマアカガエル、タゴガエル、モリアオガエル等の両生類、エゾハルゼミ、ミヤマクワガタ、オオムラサキ等の昆虫類が生息すると考えられます。

d. 山地・低地・台地－植林

「山地・低地・台地－植林」は、緩やかな山麓部、野辺山高原等の台地、千曲川やその支川沿いの低地にあたり、植生図ではカラマツ植林、アカマツ植林等の植林より構成されています。これらの生息・生育基盤に生息する主な動物として、カモシカ、ニホンジカ、ニホンリス、キツネ等の哺乳類、オオタカ、ノスリ、メボソムシクイ等の鳥類、ジムグリ、アオダイショウ等の爬虫類、ヤマアカガエル、タゴガエル、モリアオガエル等の両生類、エゾゼミ、ハルゼミ、ウバタマムシ、ヤマムツボシタマムシ等の昆虫類が生息すると考えられます。

e. 低地・台地－農耕地

「低地・台地－農耕地」は、緩やかな山麓部、野辺山高原等の台地、丘陵地にあたり、植生図では畑地雑草群落、水田雑草群落等の農耕地により構成されています。これらの生息・生育基盤に生息する主な動物として、タヌキ、キツネ、イタチ、アズマモグラ等の哺乳類、チョウゲンボウ、キジ、ホオジロ等の鳥類、アマガエル、トノサマガエル、トウキョウダルマガエル、イモリ等の両生類、ヤマカガシ、シマヘビの爬虫類、モンシロチョウ、モンキチョウ、シオカラトンボ等の昆虫類、ヒメモノアラガイ等の貝類が生息すると考えられます。

f. 自然草原・開放水域

「自然草原・開放水域」は、河川沿いや松原湖等の湖沼にあたり、植生図ではヨシクラス域の水際植生により構成されています。これらの生息・生育基盤に生息する主な動物として、イタチ、カヤネズミ等の哺乳類、オオヨシキリ、ヒバリ、ツバメ、カワラヒワ等の鳥類、カジカガエル、アマガエル、ニホンアカガエル等の両生類、カナヘビ等の爬虫類、ギンイチモンジセセリ、ツバメシジミ、アカタテハ、ミヤマアカネ、トノサマバッタ、カンタン等の昆虫類、カワニナ、ニホンマメシジミ等の貝類が生息すると考えられます。

g. 市街地

「市街地」は千曲川等の河川沿い、高原の別荘地、耕作地周辺の住宅地にあたり、アブラコウモリ等の哺乳類、スズメ、ヒヨドリ、ツバメ、ハシブトガラス等の鳥類、ナミアゲハ、キチョウ、ヤマトシジミ等の昆虫類が生息すると考えられます。

3) 環境の保全を目的として法令等により指定された地域その他の対象及び当該対象に係る規制の内容その他の状況

山梨県の調査区域には、「山梨県自然環境保全条例」(昭和46年10月11日山梨県条例第38号)第5条の規定により指定された自然環境保全地区(県内の優れた自然環境等を保全することが特に必要と認められる地域)として、紅葉橋景観保存地区、八ヶ岳川俣景観保存地区、谷戸城歴史景観保全地区が指定されています。また、「第2次北杜市環境基本計画」(平成30年3月、北杜市)によると、調査地域は地形・地理的条件や環境分野別による地域特性を考慮して区分されたエリアのうち、「八ヶ岳南麓東エリア」、「八ヶ岳南麓西エリア」に位置づけ、自然環境の保全を図る等の環境配慮指針を定めています。なお、山梨県・北杜市ともに「生物多様性地域戦略」は策定されていません。

長野県の調査区域には、「長野県自然環境保全条例」(昭和46年7月13日長野県条例第35号)第7条の規定による「長野県自然環境保全地域」は指定されていません。また、「生物多様性ながの県戦略」(平成24年、長野県)によると、八ヶ岳及び佐久地方の低地が、植物の固有種が多い貴重な場所であるとされています。このほか「小海都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」(平成25年、長野県)及び「佐久穂都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」(平成27年、長野県)によると、自然環境・生物多様性保全のため八ヶ岳山麓や松原湖等が自然保全ゾーンとして設定されています。

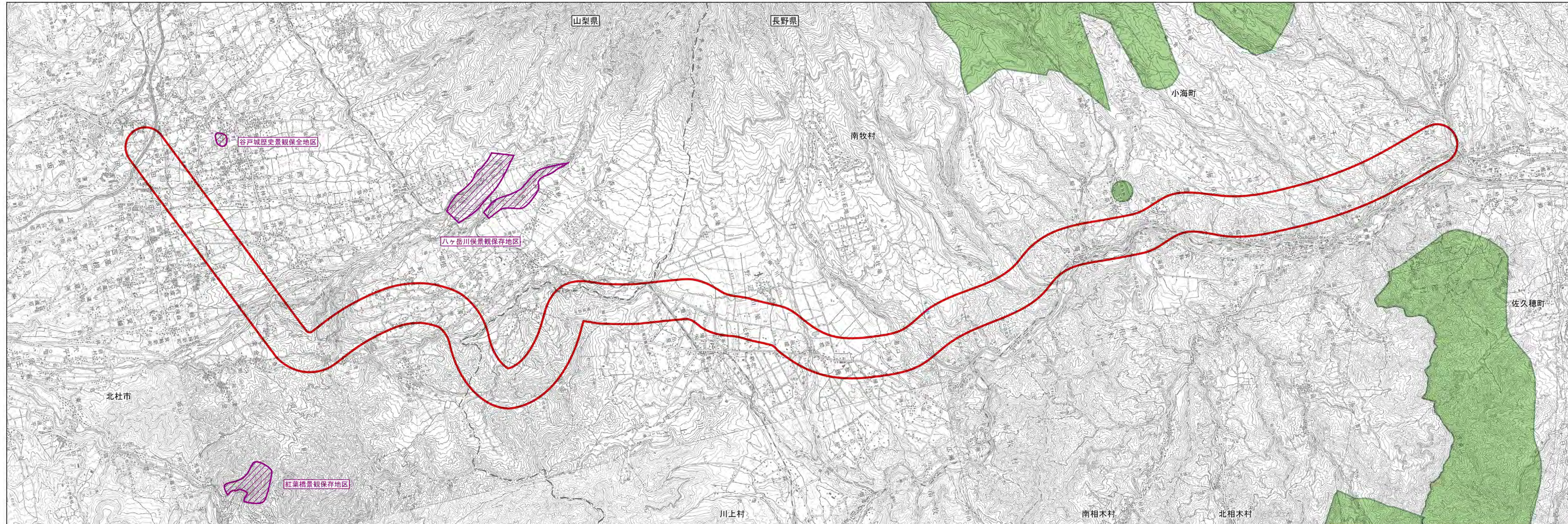


図 5-1-17 計画・戦略・目標等における地域で重要と考えられる環境の状況

凡 例

- 事業実施区域
- 県境
- 市町村界
- 自然環境保全地区
- 自然保全ゾーン

山梨県出典：「山梨県自然環境保全図」（平成 27 年、山梨県森林環境部 みどり自然課）
 長野県出典：「小海都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」（平成 25 年、長野県）
 「佐久穂都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」（平成 27 年、長野県）

